

教師は、グループで一定の關係を持てる時
間を、定期的に設けることが出来る。次にあ
げられているのは、それを實際に行なった例
である。

A先生のクラスは、種々な家庭環境の子が
集まっている。A先生は子どもに次のような
説明を与えて話し合いを始めた。「この時間
はお友達と遊びながら話し合う時と同じよう
に、自分の思うことを自由に話す為に使って
いいのです。」教師は発言を記録した。最初は
日常生活の経験が多かったが、徐々に感情を
表現しはじめた。主に家族や友達に対する態
度や感情の表現であった。時間は各回十五分
〜二十分に限られた。だから毎回全員の子に
順番がまわることは出来なかった。時にはひ
とりの子どもが大部分の時間を使ってしま
うこともあった。しかし回を重ねるに従いこれ
は少なくなった。この試みは、すべての子ど
も、自分を表現したいという希望が動機と
なっている。

子ども達の話し合いは、種々の事に役立つ
た。その一部を列記する。

○おとなしく、ひっこみがちの子が、自分
の感情の発表を機会に、友達が出来た。

○彼女が表現したのは、妹に対する怒りの
感情であった。

○ボスの存在の子どもが友達と協力して遊
ぶようになった。

○グループにおける役割を確立した子ども
が多い。

○身体的攻撃が減少した。

○クラス全体の雰囲気が和やかになった。

その他数多くあるが省略する。

教師の役割は、全部の子どもが勇氣を持て
るようにし、自分の感情をはっきり表現出来
るように援助してあげ、熱心に興味を示して
あげることである。

この試みは、すべてが成功するわけではな
く、失敗もある。

(下妻小友幼稚園 福西百合)

幼児の教育 第六十卷第二号

二月号 © 定価 五十円

昭和三十六年一月二十五日印刷

昭和三十六年二月 一日発行

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所
フレーベル館に願います。